



超音波検査をする水川先生。
真剣な表情で患者さんに、モニターに、向き合う。



水川瑞紀

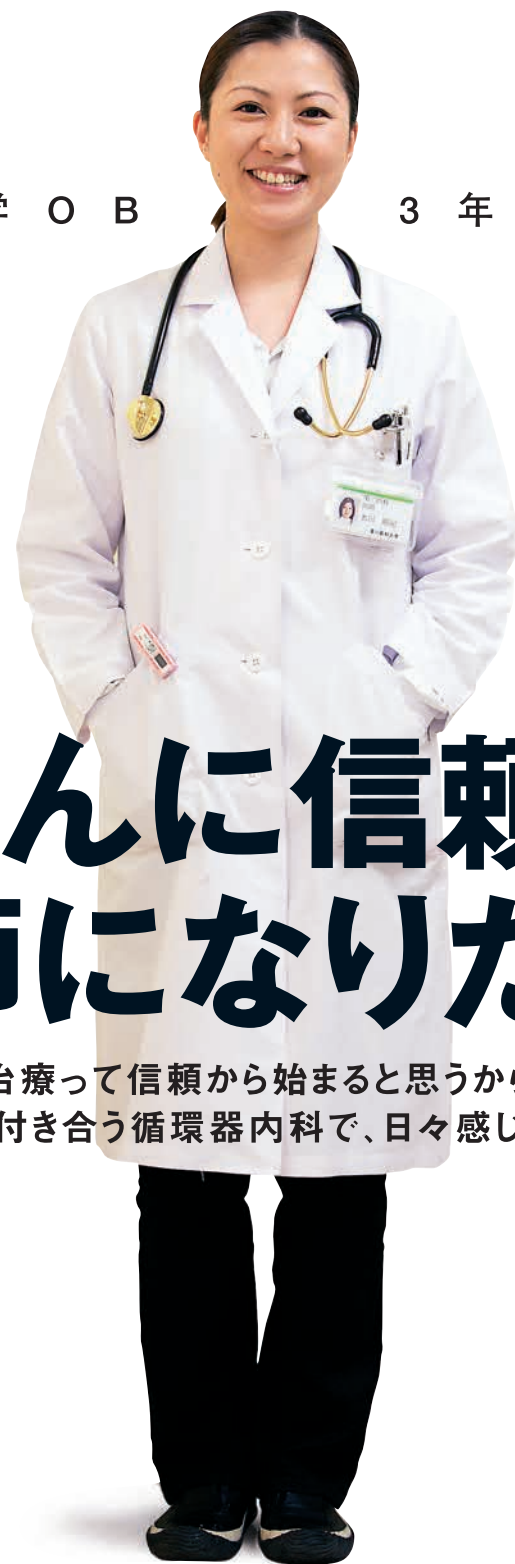
PROFILE

みずかわ みずき
香川大学医学部附属病院
第2内科循環器内科 医師

香川大学OB 3年目の実感

患者さんに信頼される 医師になりたい。

「治療って信頼から始まると思うから…」
患者さんと長く付き合う循環器内科で、日々感じること、考えること。



生の距離も近いんですよ。今でも先生が名前を覚えてくれていて、院内で声をかけてくれたりします。

実際、研修になってみると、教科書に書いてないことがすごく多いです。検査にしても、診療にしても、病態にしても、実地の経験を積まないと、いくら知識だけ学んでも役に立たないと実感しています。

特に大事なのは、それぞれの患者さんの状況を把握し、信頼関係を築くということ。循環器内科の診療科目は、心臓病や高血圧、糖尿病などの生活習慣病が中心ですが、症状によってナーバスになったり、訴えが多くなってしまう患者さんもいるし、対応の仕方もひとりひとり違います。糖尿病や高血圧の治療は、食生活の改善など日常生活が重要になりますから、家族の方の協力も必要ですし、患者さんとの信頼関係がないと治療の効果が上がりません。「先生の言うことは聞かなくていいわ」と思われたら、もうダメなんです。

だから、今の目標としては、まず信頼される医師になりたい。「次に入院する

私が医師になろうと思ったのは高3の時。人の役に立てること、自分を生かせることがたくて、医学部を目指しました。父が開業医で、その仕事ぶりを見ていた影響もあると思います。

医学部に入ってから、解剖や病理、生化学や臨床実習が始まる5年生の授業がとても楽しかったです。実習してみても、入学前に持っていたイメージとは違うところもありました。解剖も「へー、人体ってこんなになってるのか」と感じて、非常に興味深かったです。

医学部の6年を修了すると、2年間の研修期間になります。2年の研修の後は、専門分野の後期研修を行います。研修先は全国どこの病院でも選べるので、他の大学病院や一般病院で研修する人もいますが、私が香川大学医学部附属病院を選んだのは、しっかりと自分の専門の研修がしたかったから。それに学生時代からの先生や友人も多いので、人間関係のつながりが保てるよさもあります。ひとりでは判断できないことも、相談しやすい環境があれば安心です。医学部はちょっとしたキャンパスだから、先生と学

時もこの先生に診てもらいたい」と、患者さんに不快感なく、元気になって退院してもらえるように、細かいことだけでも注射する時に「先生が打ってくれたら痛くないから先生がして」と言われたり、再入院の患者さんに「今回も担当が水川先生でよかったわ」と言われた時はすごくうれしいですよ。

これから医師を目指す人には、ぜひ「人間」を好きでいてほしい。いろんな人と接する機会を自分で作って、人の気持ちを考える余裕をもって大学生活を送れたら、きっと現場でも患者さんの立場に立った治療ができると思います。病気を治すことだけが医師の仕事ではないし、技術だけでは人は治せないということをいつも意識しながら、患者さんと向き合っていきたいです。